

だんだん日が短くなってきて、秋の訪れを感じるようになりました。秋は、読書の秋、芸術の秋、スポーツの秋、食欲の秋など充実した生活が送れる季節です。一方で、台風が強い勢力を保ったまま、日本に近付きやすい時期でもあります。このような台風が日本に上陸しやすくなっている昨今、地球温暖化の影響を肌で感じることができます。今回ご紹介する本も、環境問題と動物の関係について考えさせられる本です。

今月の動物は、ペンギンです。『みんなが知りたいペンギンの秘密』細川博昭著 サイエンス・アイ新書 2009 という本は、「ペンギンが飛ばなくなった理由」や「なぜ北半球にいないのか」、「ペンギンの夫婦の恋愛事情」などペンギンの生体が分かりますよ。

ペンギンといっても、種類が多いことに驚きます。この本で紹介されているのは、18種類。体長と体重の一覧表や、6種類のペンギンの大きさ比較の図もあってわかりやすいです。北半球に住んでいる私たちは水族館もしくは、生息する南半球の現地に行かなくてはペンギンに会えません。この本を読むと、ペンギンをもっと身近に感じることができると思います。

ペンギンの特徴である短い足は、実は短くないのだそうです。ペンギンのふとももは、体外に出ておらず、体の内側にあるというのです。私たちが目にしているペンギンの足は、膝から下の部分だったのです。

ヒナの写真はとてもかわいいですよ。ペンギンの種類によってヒナの羽毛は異なり、エンペラーペンギンの羽毛はグレーで、キングペンギンの羽毛はブラウンといった感じです。鳥は年に1度か2度、換羽といって羽毛が生え変わるのだそうですが、ペンギンも同じで、ガラパゴスペンギンは年に2度、それ以外のペンギンは年に1度換羽の時期があります。この換羽ですが、ペンギンにとっては命がけなんです。全身の羽毛が生え変わるまで、通常3~5週間かかるのですが、その間は新旧の羽毛が混在しています。羽毛は、古くなると撥水性と保温性が低下していくため、換羽が始まったペンギンたちは、換羽が終わるまで海には入らず、断食状態でじっと待っているのです。しかも、体内では羽毛の原料になるたんぱく質の代謝をコントロールする肝臓が、働かなくてはならないため、疲労が蓄積されるのだそうです。換羽前のペンギンが、海で食べて太って陸に上がってくことに納得します。しかし、この換羽の時期は、敵に狙われやすくなるため、死亡率がもっとも高くなってしまいます。

特に、ヒナの羽毛は、ある程度の保温能力はあるものの、撥水性は十分ではないのだそうです。温暖化の影響で、雪ではなく雨が降って濡れてしまうと、体温を奪われたヒナが凍死してしまうことがあるのです。また、環境汚染の問題もあります。ペンギンが暮らすマゼラン海峡などは、貿易の船舶が行き交っています。船の座礁による油の流出で、オイルまみれになってしまうペンギンが毎年のようにいるそうです。人間の行動で、命を落してしまうペンギンがいることを知ってほしいです。そして、今一度、私たち人間はどういった行動をすればいいのか、一人でも多くの方が考えてほしいと思います。

